

自己評価結果公表シート（中間）

（R6年度）

作成者：白ばら幼稚園 園長 森田 真弘

作成日：R6年9月10日

1、本園の教育理念・教育方針・教育目標

◎教育理念・・・1. 私達は幼児教育に誇りをもち、子ども達への愛情いっぱいの保育で、希望溢れる明るい未来をつくります。

1. 私達は互いに尊敬し合い、人間力を高め、幸せな人生を送ります。

（R4.7 作成）

◎教育方針・・・安定した情緒の下、日々の幼稚園生活を過ごすことで、感性豊かなところとたくましいからだを兼ね備えた真の国際人を育て、明るい日本の未来を創造する。

◎教育目標・・・真の国際人とは？（具体的に）

- ・素直な子
- ・明るく朗らかで活発な子
- ・喜んで様々な活動に取り組める子
- ・規律正しい子
- ・礼儀正しい子

こそ世界で日本人らしく活躍でき得る人材と捉え、日々の保育を展開する。

2、本年度、重点的に取り組む目標・計画

保育中英語中心のインターナショナルクラス、そして英語の時間をより多く設定するアドバンスクラスとここ10年間にわたって外国人講師の積極的な採用により英語を重点的にした国際人を育てる教育を行ってきた。しかしながらここへ来て急激な円安や日本人の内向き志向など英語教育に対する逆風が吹いており、また加えて働く女性の増加から預かり保育へのニーズが年々高まっていることから、当園で行っている預かり保育の量では保護者の満足を得ることができていない現状を鑑み、今年度から預かり保育の中で英語の保育を行うことにシフトチェンジし、そのことにより午前中はよりゆったりと今の子ども達に必要な保育を行っている。

またコロナ禍で明らかになった日本の保育の問題点、例えば西洋諸国より一人の保育者が見る園児の数が1,5倍ほど多いという大規模なクラス編成、更には運動会を代表的に行事の数が多い日本の幼稚園では保護者が一度に大勢来園するのが困難なコロナ禍では運営や教職員に掛かる負担など大きな支障をきたしていることが挙げられる。こういった点を解決するため昨年度中に今一度これまでの歴史を振り返り、これまで半世紀以上にわたって教職員により脈々と大切に培われ続けてきた教育理念（何を大切にして保育が行われてきたか？以下、理念と言う）がどうであったか、そしてこれから先どういった理念を持って日々の保育に臨むべきかを教職員全体で確認し共有したいと考え、昨年度当園の理念を策定させた。また平成27年から始まった子育て支援新制度により私立幼稚園が教育から保育中心、言い換えれば子の教育が家庭中心から施設中心に移り変わりつつある中、当園は新たに策定した理念に基づき今後どの方向に進むべきかを数年かけて検討していくこととする。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取組状況
国際社会に通用する人材育成の基礎を築く ① 対人間コミュニケーション能力の育成 (態度教育、アクティブラーニングの導入等) ② 英語保育のさらなる充実 (ホワイトローズ英会話学校との連携強化)	① 態度教育のプログラムを平成28年度から取り入れることで徐々に教職員が園児や保護者の手本となって対人間コミュニケーションの基礎となる「あいさつ・返事」ができるようになってきたことから、当園の教育目標である規律正しい子、礼儀正しい子の育成に結果が出始めてきた。その結果、小学校の先生からも地域の方々からも評価されつつある。まずは教職員が率先垂範することが大切で、そのためにも活力朝礼を通じたより良い習慣形成に今後も努めたい。アクティブラーニングについては今後、園内研修等を行い、取り組む意欲が教職員間で醸成できるかが課題である。 ② 英語保育に関してはインターナショナルクラスからアドバンスクラスになって4年目を迎えており、英語教員の確保、および英語教員と幼稚園教諭とのコミュニケーションも少しずつ良好になってきている。しかしながら昨今の為替（急激な円安）や少子化による園児募集減から今後、英語クラスを複数設けることが困難になることが予想されることから、本年度からは放課後の預かり保育の中で英語に触れる時間の確保を優先するインテンシブクラスを設定している。またそのことで私立幼稚園のこれまで培ってきた行事による子どもたちの成長に導くことを優先的に捉え、行事前の保育時間にゆとりを持たせることが出来るメリットも挙げられる。
日本人として誇りを持って世界で活躍できる人材の育成の基礎を築く (態度教育の研修機会の提供)	態度教育（挨拶・返事・履物をそろえる・立腰・食育）の導入により、元来日本人が備わっている品性・品格をもった子どもを育て、自己肯定感の高い自立した子どもを育てることができている。また当園の教育方針にある真の国際人の育成とは日本人としての国際人の育成であり、取りも直さず日本人として誇りを持って国際社会で活躍できる人材の基礎を幼児期に培うことである。しかしながら今ある日本の現代社会はマナーの欠如、倫理観の欠如など古き良き日本人のここを今一度取り戻すことが必要で、そのためにはしつけの崩壊が叫ばれている昨今、家庭にて当たり前に行ってきたしつけを幼稚園にて補完的に行う必要があると考え、態度教育に鋭意取り組んでいる次第である。 今ある課題としては教職員間の態度教育の必要性に対する更なる理解と教職員も人間として成長することが我が喜びに繋がることを実感するためにも態度教育を実践することで結果

	がついてくる、また園児達の良い習慣形成を実感して次なる実践に繋げていく相乗効果を求めて教員研修を行う必要がある。
情報化社会への対応と積極的な対保護者への情報発信に向けて	益々社会は情報化がスピードアップし、それに乗り遅れると園として存在意義が薄まってくると危機感を感じているところである。園は保護者に知ってもらうことが経営における出発点であり、その努力を疎かにしては私学経営は成り立たないのは明白である。 さて、幼稚園における情報化社会への対応とはすなわち保育の可視化であり、日々教職員が保育に注ぐ秘めたる想いを保護者に対してSNS等をさらに活用しながら積極的に発信することで、保護者とのより良いコミュニケーションに繋がるだけでなく、幼稚園への信頼確保につながると考える。昨今、各園でドキュメンテーションが積極的に取り組まれているのはその証拠である。今年度をスタートの1年と位置づけ、ドキュメンテーションやInstagramを利用した保育の情報発信に積極的に取り組んでいくこととする。
子育て支援の充実に向けて (預かり保育の充実、満三歳児クラスの開設、2歳児クラスの増設等)	平成27年度からの子ども子育て新制度、令和2年10月からスタートした幼児教育保育の無償化により就労支援向け預かり保育や低年齢児の保育のニーズが高まってきたのと逆行する様に当園はコロナ対応を最優先させるために預かり保育の人数制限、また教員不足による低年齢児保育の開始の延期を余儀なくされてきた。このことが幾ばくか園児募集減に繋がっているのが当園の置かれる現状である。 しかしながらR4年度から始まったチーム制が功を奏し、人材確保に対する結果が出始め、また園の課題を新たなチームを作ることで園として全体で取り組むべき課題と位置づけ、その課題を解決すべく具体的行動を実行に移すことで少しずつチームで動ける職員体制ができつつある。まずは当園のおかれている現状把握が最も大切で、その後PLAN→DO→CHECKの良き流れを作っていくことが課題である。園児減の現状の把握から始めていくことが大事である。

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

令和2年度実施した自園調理の厨房の設置を含め、園舎を建て替えることなく保育をしながら改修工事を進める園舎・園庭の改築工事がほぼ終わり、来るべく東南海地震にも耐えうるハード面では子どもたちに安心安全を提供できる申し分のない施設が出来上がっていると考える。しかしながらそれは保護者にとって魅力ではなく必要最低限の条件であり、その結果少子化による園児減を食い止めることができず、そこにコロナ対策も加わり教員の確保も困難を極めている状況である。当園として課題は山積していると言える。

そういった状況下における当園の最大の課題は、小手先の園児募集や教員採用ではなく、当園の存在意義を今一度見直し、園設立から半世紀以上にわたって続いてきた教育理念を再確認することである。何のために園児を獲得し幼児教育を施すか、何のために白ばら幼稚園の先生は当園で幼児教育を通じた仕事に従事するのか？そのことが明確になれば、きっとこれから当園が進むべき方向性を一早く見出すことができるはずである。

まずはこの度策定した教育理念を教職員全員に浸透させ、その理念に沿った園運営、理念にそった幼児教育の実践が求められている。成熟した日本社会、また超少子高齢化社会では今後は量よりも質が問われていくのは間違いのないところである。そう言った点から当園の強み、良質な保育をしっかりと発信し保護者に当園を選んでいただく選択肢の一つになるための機能を理念に沿った形で新たに提供し、取捨選択しながらも良質な幼児教育により選ばれ続ける園になることが最大の使命である。

5、今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
教育理念の浸透と園の方向性を定める	R5 年度に作成した教育理念と中長期計画（5 年ビジョン）にもとづき、日々の保育を実践することで本当に必要な園として地域に認識していただくことが求められる。そのためにはまずは教職員間の教育理念の浸透が必要である。
自然体験の充実に向けて	自園給食のスタートとともに実施を開始した食育の更なるステップアップ、自園が所有する農園での収穫体験のメニューを増やす、園外での四季を通じた自然体験学習会の企画など子どもたちには日本の食文化や自然を愛し、日本には世界に誇れるものが沢山あり、決して輸入品に頼るだけが食の豊かさではないことを学んで欲しいとの思いから教職員一丸となって子どもたちに有益な学びの提供をし続ける。今年度は新しい収穫体験のメニューを 1 つ増やすことができた。
卒園児対象の学習の場の提供	現在、英語と体操に関してはホワイトローズ英会話学校、およびコスモスポーツクラブとの連携の下、小学生が卒園しても学びを続けている。これからの小学生の基礎的学力として必要な STEAM 教育を中心に学べる卒園児対象の放課後学習教室(学童保育室)の整備に向けた準備を計画する。具体的にはホワイトローズ英会話学校にて学童保育をスタートさせるべく現在準備を行っている。